

かがやく明日のために

With You



Vol.75

+++ 編集 +++
With You編集委員
+++ 発行 +++
長野市男女共同参画センター

長野市男女共同参画情報紙「With You」は、男女共同参画社会づくりに向け、年3回、市民編集委員と共に様々な視点から情報を発信しています。令和4年度 長野市男女共同参画優良事業者賞を受賞された、株式会社サフィックス(コーティング剤の企画・開発・販売)を取材しました。

《優良事業者選定理由》

- 「子育ては会社の仕事よりも優先される」と位置付けており、役職を設けないフラットな職場で事業に取り組んでいる。
- 社長と社員との距離が近く、社員のお子さんも社長や他の社員に懐いている感じが見受けられ、社長自ら、男女共同参画、働き方改革、子育ての在り方に取り組んでいる。

株式会社サフィックス様に荻原市長から、賞状と記念の盾が手渡されました。



令和4年度 長野市男女共同参画優良事業者 ご紹介

本市では、市内に本社機能を持つ従業員300人以下の事業所で、男女共同参画の推進に積極的に取り組む男女共同参画優良事業者を毎年表彰しています。

昨年度は株式会社サフィックス様が受賞しました。その取り組みについて代表取締役の景山斉さん、事業執行責任者の杉浦花音さんのお二人にお話を聞きました。

不便をピンポイントで 解消できる「サフィックス」

――貴社について教えてください。

景山：8月現在、従業員は9名で全員女性です。

サフィックス(saffix)は「接尾語」という意味の英語です。接尾語が異なるとまったく違った意味の言葉になります。単語につく接尾語によって言葉の性質が変わるよう、商品も組み合われを少し変えることでまた違った性質を持ち、別の商品となり、不便をピンポイントで解消できるようになります。社名にはそんな意味が込められています。

子育ては 仕事より優先される

景山：当社は「子連れ出勤OK」です。新しく入社した社員が子どもを連れてくると、まず、子どもが職場の環境に慣れるまでに時間がかかります。最初、親である社員は「他のみんなは仕

事においては、金属アレルギーのある人は、かわいいアクセサリーをつけたいと思つても、アレルギーがあるからと諦めてしまう。できないことがあることは、生活の基本的な部分で満足できていない、不便なことだと思います。不便を便利に変えると言つても、車の自動運転のような凄いことをしようとしているわけではありません。生活の中の何かを少し変えることで、個人の満足が得られるようになります。そんな、生活に密着した商品を提供していきたいと考えています。

――この体制のきっかけを教えてください。

景山：ある場所で人材募集の話をした時、一生懸命に話を聞いていたのが、当社の最初の社員となつた杉浦さんで、生まれて間もない子を背負っていました。面接をして、「ぜひ来てほしい」

例えば、金属アレルギーのある人は、かわいいアクセサリーをつけたいと思つても、アレルギーがあるからと諦めてしまう。できないことがあることは、生活の基本的な部分で満足できていない、不便なことだと思います。不便を便利に変えると言つても、車の自動運転のような凄いことをしようとしているわけではありません。生活の中の何かを少し変えることで、個人の満足が得られるようになります。そのため、当社は「仕事よりも子育てをしている時間も勤務時間です」としています。子どもは慣れるし、すぐ成長します。心配しなくとも、3ヶ月もすれば仕事に集中できるようになります。



取材日は夏休み中でしたので、いつもよりたくさんの子どもがいてぎやかでした。

と思いましたが、それまでは私一人で業務をこなしていたため、子育て中の社員を受け入れる体制は用意できていませんでした。

「会社を家のリビングみたいにすればいい。リビングで子どもを遊ばせながら仕事をしてい

る感覺なら、安心して仕事も、子育てもできるだろう」と思いました。視点を少し変えて、会社で仕事をしながら子育てができるようにするという感覺では

なく、家で子どもの面倒をみながら、仕事ができるようになります。この発想がスタートです。

最初、どう思いましたか？

杉浦：はじめ会社の案内で、「子連れOK」とあるけれど、どうい

うこと？うちの子は生後半年だ

けれどいいの？」って思いました。

社長の景山さんは「必要なものがあれば言つてください」と言つてくれて、私も「あれば欲しい、これが欲しい」とひたすら言いました。それを全部用意してくれました。息子は、まだハイハイもできないズリバイの時期でしたので、「絨毯じやないと難しい」と話をしたら、景山さん自らカーペットまで貼ってくれました。ここまでしてくれるなら、ぜひ入社したいと思いま

い、今に至っています。

子どもが泣き止まない時は？

杉浦：入社してすぐの頃、泣き止まない時がありました。その時、「仕事より子育て優先」

の言葉に助けられました。今は息子が『絶賛イヤイヤ期』なので、ギヤンギヤン泣いていたとしても、できるだけ見守るようにしています。甘やかすのではなくて、教育も兼ねてやらせてもらっています。

朝、出社した時、「午前中はここまで仕事を済ませると段



事業執行責任者
杉浦 花音さん

どのように割り込ませるかは、工場の社員全員で考えて決めます。もちろん調整役は必要ですが、それぞれの社員が主体性を持つた働き方をしています。

子育ては、突発的な出来事の連続です。例えば、子どもに少しだけ発熱があれば保育園ではあづかってくれないという話を聞きます。当社は、仕事しながら目の届く範囲に子どもがいるので、少々の熱であれば、会社に連れてきて仕事をすることができます。出勤が無理な場合は在宅で勤務できます。こうした仕事と育児に柔軟な対応ができるのは、社員それが主体的に働いているからだと考えています。

景山：ひとりではどうしても乗り切れないのが「子育て」です。だから周りのサポートが必要です。大きなことではなく、できるところからやっていけばいいと考えています。

景山：ひとりではどうしても乗り切れないのが「子育て」です。だから周りのサポートが必要です。大きなことではなく、できるところからやっていけばいいと考えています。

国際ソロブチミスト長野みすず様
より男女共同参画啓発事業のため、
モート講座用丸テーブルとり
モート講座用ヘッドセット
を寄贈いただきました。

取引先の反応や変化

景山：私は杉浦さんに「営業先

の会社で、子どもを連れていくことを嫌がられたら、すぐ席を立つて帰ってきていいよ」と言っています。どれほど大事なお客様でも、それを受け入れられない会社は、うちのお客様じゃないからと話しています。

杉浦：今のところ、営業先で嫌な顔をされたことはないです。逆に「いいなあ。いい会社だね」と言われます。

お問い合わせ

長野市男女共同参画センター

(指定管理者 協同組合長野シーアイ開発センター)

〒380-0814 長野市大字鶴賀西鶴賀町1481-1

勤労者女性会館しなの内

026-237-8303